



# ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年9月

# 販促・魅力発信

- ALPS処理水に関する風評を抑制・払拭することに加え、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興や持続的な発展を後押しするため、経済産業省、復興庁、農林水産省にて、2022年12月20日に「**魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク**」を立ち上げ。
- ネットワークの取組の一つとして、2023年7月15日（土）から9月30日（土）を「**三陸・常磐ウィークス（第2弾）**」と称し、イベントの実施や、ネットワーク参加企業等による「**三陸・常磐もの**」の消費拡大を実施中。
- 9月6日（水）には経済産業省内でも「福島復興マルシェ」を開催。会場では**福島県の名産品であるモモやいかにんじん**などが販売された。
- 経済産業省里見政務官も会場を訪れ、たくさんの福島県産品を購入した。

## イベントの様子



- 「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」の取組みの一環で、9月26日から9月28日にかけて、参議院議員会館の食堂においても「三陸・常磐フェア」を開催。
- 三陸産のサバやサーモンやわかめ等が使用された特別メニューが提供された。
- 岩田経済産業副大臣も会場を訪れ、特別メニューを美味しく頂いた。

## イベントの様子





- **三陸の魚市場から加工・流通までのスキームを多くの消費者に現場に来ていただき体験してもらい、安心とおいしさを消費者の声から広げていく新しい広報として、水産加工事業者の工場見学を通じた魅力発信を実施。** Open Factory 事業実施に向けて、経済産業省において専門家派遣を支援。
- 具体的には、**株式会社及善商店（宮城県南三陸町）を訪問するツアーを9月4日に実施。** 及川会長、及川社長から直接、製造工程の説明だけではなく、会社経営への想いや地域産業との関わり等について話を聞くとともに、**工場見学も通じて、商品の安全性やおいしさ、地域の魅力等を消費者にPRした。** また、ツアー工程に地元商店街での昼食を組み込み、地場で水揚げされる水産物の美味しさも消費者にPRした。

## Open Factory事業のイメージ



★日常食とお土産品の両方の用途があるかまぼこの、販路開拓に向けた取り組みを学びます★

かまぼこは日本の食生活に欠かせないものです。日常の食卓にでてくるもの、お土産品として購入するもの、用途はいろいろありますが、昨今、及善商店さんが「常温で持ち歩ける笹かまぼこ」を発売してから、かまぼこがお土産品になる確率が増えました（筆者談）。新しいことに取り組み及善商店さんでお話を伺い、工場を見せていただきます。その後、さんさん商店街に移動して、加工食品や生鮮品などを扱うお店を巡ります。南三陸町の事業者の皆さん、元気な方が多いですが、あの甚大な被害があった東日本大震災からどう復興してきたのか、それを見るために復興記念公園にも立ち寄ります。



- 9月6日～10日の5日間、**JR上野駅の中央改札口前**で開催された「福島産直市」に、福島相双復興推進機構の主催で、**福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」**を出店。
- 本イベントでは、**福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者12社の商品**を販売。また、**8・9日にはマルリフーズの「かけるあおさ」の試食を実施**。
- テレビ局3社、新聞社1社の取材が入り、**会場の様子や来場者インタビューなどをメディアを通じて紹介**した。
- **商品はほぼ完売**し、「福島を応援しているから頑張ってください！」、「もっとこういうのをどんどんやって誤った情報に対抗していこうよ！」といった、応援する声が多く寄せられた。

## 常磐大漁市 福島産直市in上野駅



試食の様子



- 2日間で約570人分の試食を実施、約280のアンケートを回収。
- 「あおさの香りがいい、風味を感じる」「どんな料理にも合いそう」などの声をいただいた。

- JFOODOは2023年9月20日、ニューヨークで実施された**国連総会に合わせて観光庁が主催した訪日観光レセプション**において、**食の提供等により日本食・食文化を発信**。
- 同レセプションには**米国政財界要人**、観光事業者、メディア等**200名程度**が参加。
- 在NYの著名シェフ監修の下、**北海道・東北地方の水産物を多用した特別メニューを提供**し、来場者から高い人気を博すとともに、効果的な日本産水産物のPRを実施した。また、日本産のフルーツジュースも提供した。
- レセプションの中では、**JETRO・JFOODO・ニューヨーク総領事館が合同でブースを出展**。在ニューヨークの日本食レストランや小売りのガイドブック、ECサイト等をレセプション参加者に対して紹介。

## 日本産試食食料品の提供

### 特別メニュー

1. しめ鯖とワカモレの海苔タコス（**宮城県の鯖**、有明の海苔）
2. カンパチのお刺身、ハラペーニョ添え（**静岡県のカンパチ**）
3. 平目のお刺身、ドライ味噌掛け（**青森県の平目**、長野県のドライ味噌）
4. 穴子の天ぷら、甘酢ポン酢ソース（**宮城県の穴子**）
5. 野菜床でマリネしたブリのグリル、バターレタス包み（**北海道のブリ**）
6. 北海道帆立のグリル、しそサルサ（**北海道の帆立**）
7. 宮崎和牛のステーキ、山葵ペッパーソース（**宮崎県の和牛**）
8. 手巻き寿司：
  - ・真鯛としそ、胡瓜の手巻き寿司（**青森県産の真鯛**）
  - ・北海道帆立の手巻き寿司、クリームスパイスソース（**北海道の帆立**）
9. 北海道の富良野産メロン（**北海道 富良野産のメロン**）

### 日本産フルーツジュース

1. 広島産デコポンジュース
2. **青森産りんごジュース**
3. 愛媛産みかんジュース
4. 緑茶



提供と同時に来場者が殺到し、短時間で空き皿となる様子



青森県産の真鯛、北海道の帆立を使った手巻き寿司を提供

## ブース展示



- **JETROの招へいた海外バイヤーのうち、13名が、東京でのプログラムに引き続き、北海道での企業視察、商談会に参加。**2023年8月28日は、**企業視察ツアー**で札幌中央卸売市場を訪問。**カネシメ高橋水産株式会社（水産物）**の案内で卸売市場を視察。また午後、**オルソン株式会社（水産加工品）**を訪問。
- 8月29日～30日開催の**道産食品輸出商談会「FOOD HOKKAIDO 2023」**内で、JETRO招へいの海外バイヤーと、76社の北海道企業、または北海道産の食品を扱う国内事業者と商談を実施。そのうち、**22社の北海道の水産品・水産加工品を扱う企業と商談。**冷凍ホタテ貝柱や冷凍イクラ醤油漬けのほか、ホッケ、カニ、ウニ、鮭、アワビ、昆布の加工品等について商談。

## 企業視察ツアー

実施日：8月28日（月）

視察先と参加バイヤーの国名：

- ◆ **札幌中央卸売市場（カネシメ高橋水産）**  
米国、ペルー、カンボジア、韓国、フィリピン、ベトナム、アラブ首長国連邦
- ◆ **オルソン株式会社**  
米国、スウェーデン、中国、カンボジア、インドネシア、韓国、ベトナム



←（左写真）札幌中央市場視察の様子（オレンジの帽子を被った海外バイヤー）

（右2枚写真）→商談会会場と米国バイヤーとの商談の様子

## ジेटロ食品輸出商談会 in 北海道概要

日時：8月29日（火）～30（水）9:00～17:00

場所：道産食品輸出商談会「FOOD HOKKAIDO」内（ホテル ロイトン札幌）

バイヤー：13名

※特に水産に関心の高いバイヤーは9名（米国、スウェーデン、タイ、カンボジア、インドネシア、韓国、フィリピン、ベトナム、アラブ首長国連邦）

参加企業：76社

➡そのうち、水産・水産加工品企業：24社

➡そのうち、北海道企業が22社。

ほか2社は、道外企業で北海道産の水産・水産加工品を扱う企業



- 2023年9月10日に**米国・コロラド州デンバー**で**愛媛、青森、島根県産の水産品・水産加工品の試食商談会**を実施。事業者計17社が**タイ、ブリ、ホタテ、ウナギ、のどぐろ、サバ、その他加工品等**を出品。**米国内陸部をターゲットとした取組**。
- 試食商談会には、現地の食品卸業、小売業、レストランのバイヤー32名が訪れ、一般客を合わせると**約80名以上が来場**。
- **在デンバー日本国総領事も来場**し、事業者との情報交換を実施。
- **魚種が異なる3県の事業者が参加**したことで、**日本の水産品の多様性をPR**できた。
- 本商談会では物流の実証もかねて、**初めて成田－デンバー間の直行便を利用して商品を空輸**。引き続きオンライン商談会を実施予定であり、**米国内陸部への更なる販路拡大が期待**される。

## 米国・コロラド州デンバー 試食商談会の様子



- 2023年9月5日に**オランダ・アムステルダム**で、また9月7日～8日に**フランス・パリ**で、**福島県産の日本酒の試飲商談会を開催。県内14蔵元・30銘柄**を現地バイヤーに紹介。
- 参加した蔵元は、「舌の肥えたフランス人に（自分の酒が）どう響くのか興味があった。ただ『おいしい』と言うだけでなく、**苦みなどの個性をしっかり評価していただいた**」、「**日本酒はフランス料理との相性がいい**。まだまだ販路を広げるチャンスがある」と手応えを語った。
- 現地バイヤーからは、「**オランダでは日本酒専門店がオープンするなど日本酒への関心はかなり高まっている**。消費者、飲食店関係者に対する日本酒の啓発が今後の課題。」、「**福島県産の日本酒が非常に優れているということ（フランス）内外で伝えたい**」との声が寄せられた。これを踏まえ、今後オンライン商談を引き続き実施予定。

## オランダ・アムステルダム 試飲商談会



## フランス・パリ 試飲商談会



- 政府からの要請に応え、JETROは「水産品等食品輸出支援にかかる緊急対策本部」を9月8日に設置。
- 同対策本部では、処理水放出に伴う事業環境の変化に即応し、**海外における代替市場の販路開拓、水産物をはじめとした日本産食品のさらなるイメージアップ**に、重点的に取り組む。

## 今後の取組

### ◆ 海外の代替市場の販路開拓や海外での日本産食品のさらなるイメージアップに取り組む JETRO

日本貿易振興機構（JETRO）

お知らせ・記者発表

具体的には、**有力展示会**出展、バイヤー招へい等による**商談機会の組成**、**越境EC**も含めた販路開拓、海外の要人が参加する国際会議等での**水産品のプロモーションイベント**、海外の飲食・小売店等と連携した**水産品フェア**等、様々な取り組みを計画中。

水産品等食品輸出支援にかかる緊急対策本部の設置と今後の取り組み

2023年09月08日

JETROでは、政府からの要請に応え、日本からの水産品等食品の輸出に大きな影響を与えるような急激な事業環境の変化に可及的速やか且つ組織的に対応するため、水産品等食品輸出支援にかかる緊急対策本部（以下、「水産対策本部」という。）を設置し、海外における代替市場の販路開拓、水産物をはじめとした日本産食品のさらなるイメージアップへの取り組みを重点的に展開します。

#### 1. 水産対策本部について

副理事長を本部長とし、関係役員を始め、農林水産食品部・日本食品海外プロモーションセンターを中心とした事業部の部長等によるメンバーで構成。関係事業に関する機動的な推進役となる。

#### 2. 今後の取り組み

水産物を中心に、**海外の代替市場の販路開拓や海外での日本産食品のさらなるイメージアップ**のため、有力展示会出展やバイヤー招へい等による商談機会の組成、越境ECも含めた販路開拓、海外の要人が参加する国際会議等での水産品のプロモーションイベント、海外の飲食・小売店等と連携した水産品フェアなど、様々な取り組みを計画中。直近のものは次の通り。

#### 直近の主な取り組み事例

(1) ラグビーワールドカップでの食品プロモーションイベント（2023年9月8～9日）

フランス・トゥールーズ市で開催されるラグビーのワールドカップに合わせ、世界から来訪する観戦者等に向け、ホタテやブリといった水産物のほか、牛肉、コメ、メロンなどの日本産食品のプロモーションイベントを開催する。

(2) 米国輸出支援プラットフォーム水産分科会の設置（9月中）

輸出有望市場の一つである米国に水産関係卸など関係者で構成する水産分科会を設置し、現状把握やプロモーションの要望等を聴取し、今後の事業戦略に反映する。

(3) ANUGA2023（2023年10月7～11日、ドイツ・ケルン）での食品プロモーションイベント

日本からの食品輸入規制を解除したEU市場への売込みのため、EUにおける有力な総合食品展示会であるANUGA2023にて商談機会を提供するとともに、会期中に現地バイヤーやメディア等をお招きし、水産品等の日本食を提供して、その魅力をPRする。

(4) 世界主要水産品展示会での売り込み

世界で主要な水産品展示会であるSeafood Expo North America2023（2024年3月10～12日、米国・ボストン）、Seafood Expo Global（2024年4月23～25日、スペイン・バルセロナ）に出席し、水産品の大規模需要が期待できる欧米市場の販路を開拓する。

(1) ラグビーワールドカップでの食品プロモーションイベント（2023年9月8～9日）

(2) 米国輸出支援プラットフォーム水産分科会の設置（10月上旬）

(3) ANUGA2023（2023年10月7～11日、ドイツ・ケルン）での食品プロモーションイベント

(4) 世界主要水産品展示会での売り込み

- Seafood Expo North America2023  
（2024年3月10～12日、米国・ボストン）

- Seafood Expo Global  
（2024年4月23～25日、スペイン・バルセロナ）

→水産品の大型需要が期待できる欧米市場の販路を開拓する。

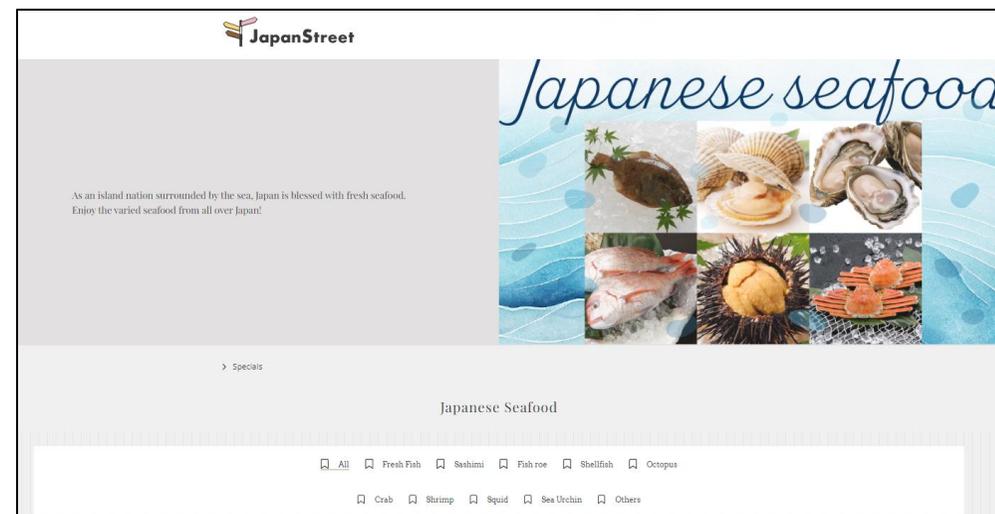
▲ニュースリリース（2023年9月8日付）

- 9月15日（金）に、JETROが運営する“Japan Street”（ジェトロが招待したバイヤー専用のオンラインカタログサイト。約90カ国・地域で約2,900のバイヤーが登録（23年9月現在））上にて、**日本の水産物特集ページを開設**。350商品を掲載し、日本の水産物の販路拡大を支援。

## Japan Street 水産物特集ページ概要

- ・開設日：2023年9月15日（金）
- ・対象：日本の水産品
- ・掲載数：151社350商品
- ・登録バイヤー：約2,900社。うち、約1,100社超が食品取扱バイヤー
- ・内容：日本の水産物を世界各国のバイヤーに紹介。バイヤーからの引き合い取得後、ジェトロにて、商談日程調整や通訳手配、商談同席などを行い、販路拡大を支援。

※いずれの情報も9月15日時点。



Japan Street 水産物特集ページ トップページ

- 中小機構の中小企業大学校（三条校）の食堂にて50食限定で、**三陸・常磐もの食材を使った特別企画メニューを提供した。**また、三陸・常磐もの説明用POPや観光パンフレットを食堂やロビーなど大学校内に広く設置し、周知活動を実施した。

## 9/6～9/7 中小企業大学校（三条校）食堂にて消費拡大の取組

### ◆企画概要

- ・開催日時：2023年9月6日（水）～7日（木） 昼食
- ・中小機構は、三陸・常磐ものネットワーク参画メンバーである「株式会社ニッコトラスト」と協力し「三陸産さんま蒲焼き丼&とろとろワカメの味噌汁」の提供、三陸の自治体のパンフレットの配布などを行うイベントを実施

株式会社ニッコトラスト

<https://www.nikkokustrust.com/corporate/outline.html>



▲特別メニュー



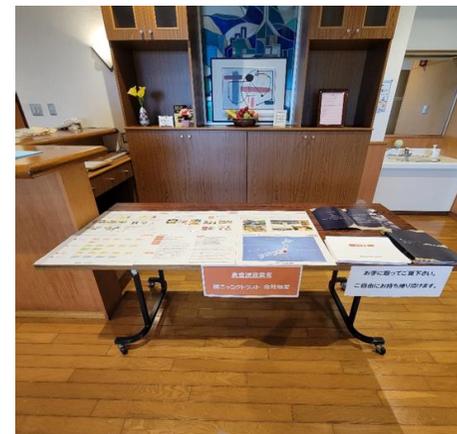
▲食堂の様子



▲調理場の様子



▲調理場の様子



▲パンフコーナー

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、10月1日、英国・ロンドンのトラファルガー広場で開催される「**ジャパン祭り2023**」にて、ヨーロッパで初めてブースを出店し、福島県産品「**梨・桃・ぶどう**」と「**北海道産ホタテ**」をPRする。
- 9月29日～10月29日、タイ・バンコクの高級百貨店で、今が旬の福島県産「**シャインマスカット**」の試食販売イベントを開催する。
- 10月11日～10月13日、ASEAN市場最大級の日本の食に特化した見本市「**Food Japan 2023**」に「**発見！ふくしま**」ブースを初めて出店する。

## 英国・ロンドン ジャパン祭り2023

- 日程：10月1日（日）
- 場所：ロンドン トラファルガー広場



◀ ジャパン祭り  
(イメージ)



▲ トラファルガー広場



◀ ジャパン祭り2023

## タイ・バンコクフルーツPRイベント

- 日程：9月29日（金）  
～10月29日（日）
- 場所：グルメマーケット サイアムパラゴン



▲ 8月の福島県産「桃」のPRイベントの様子

## シンガポールFood Japan 2023

- 日程：10月11日（水）  
～10月13日（金）
- 場所：サンテック・シンガポール国際会議  
展示場



▲ PRブースの様子（イメージ）

- 10月13日～12月17日、「発見！ふくしま」キャンペーン2023～食べて応援 ニッポンの幸～と題して、首都圏や福島県に加えて、九州、北海道、沖縄そして海外において、**さまざまな販促イベントを開催し、「福島県産品」をはじめ「国内水産品」の美味しさや魅力を伝える。**
- 10月14日～15日、福島県営あづま総合運動公園で開催される大規模参集型音楽イベント「**LIVE AZUMA 2023**」と**連携し、会場にて「発見！ふくしま」7ブースを出店し、福島県産品を使ったメニューを提供する。**
- 10月22日、千葉県柏市公設総合地方卸売市場で開催される、「**かしわ市場まつり**」に「**発見！ふくしま**」として**初めて参加し、福島県産「水産加工品」や「ぶどう」をPRする。**

## 「発見！ふくしま」キャンペーン2023 ～食べて応援ニッポンの幸～

- 開催期間：10月13日（金）  
～12月27日（日）



▲特設サイト（2023年）

- 販促イベント、大型イベント、キッチンカー出店、グルメフェア、ECサイトキャンペーンを実施予定。
- 詳細については、別途開設されるキャンペーン特設サイトにて案内予定。

## LIVE AZUMA 2023

- 日程：10月14日（土）  
～10月15日（日）  
10:00～19:00（予定）
- 場所：福島県福島市  
あづま総合運動公園



▲会場の様子（2022年10月）

## かしわ市場まつり

- 日程：10月22日（日）  
8:00～13:00（予定）
- 場所：千葉県柏市  
公設総合地方卸売市場



▲会場の様子（2019年）イメージ



◀オフィシャルウェブサイト

- 9月8日～21日の14日間、首都圏で新鮮な水産品を販売する「sakana bacca サカナバッカ」の全9店舗で「発見！ 福島フェア」を開催し、フェア限定ヒラメ2食丼を1,973個販売した。
- 9月16日～18日の3日間、南相馬市の北泉海浜公園で開催された「Surf in MUSIC」の会場にキッチンカーを出店し、「常磐もの」を使用したフィッシュバーガーやメヒカリの唐揚げなどを提供し、631食を販売した。

## sakana bacca 福島フェア



▲会場の様子

## Surf in MUSIC in 北泉



▲会場の様子

▶フェア限定「ヒラメ2食丼」



▲あんこうのフィッシュバーガー ▲メヒカリの唐揚げ ▲トマトジュースの炭酸割り

# 理解釀成

- 2023年9月5日、福島県福島市で開催された「令和5年度第2回廃炉安全確保県民会議」において、**ALPS処理水の処分**に係る取組について説明し、意見交換を行った。

## 会議の様子



- 2023年9月2日に開催された「なつ祭りinおおくま2023」や同年9月9日、10日に開催された「ツールドふくしま」において、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をするとともに、パンフレットの配布を行った。

なつ祭りinおおくま2023の様子



ツールドふくしまの様子



- 2023年9月16日から18日にかけて開催された「**Kitaizumi Surf Festival2023**」において、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。来場者やサーファーの方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をするとともに、パンフレットの配布を行った。

## Kitaizumi Surf Festival2023の様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載**。

## ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで見よう。考えよう。ALPS処理水のこと

日本語 | English

安全対策・風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

### ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

#### ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※3月27日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）  
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

➔ 放出結果はこちら

次に放出する水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※6月26日に採取を行ったALPS処理水（K4-Cタンク）  
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

#### 東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これらを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

## Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで見よう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の  
海の状況は  
どうなっているの？

経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで見よう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は  
大丈夫なの？

経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 本年5月に公開した、「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。9月末時点で計450万回以上再生。（動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。）

## 1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで知ろう。考えよう。ALPS 処理水のこと

ALPS 処理水

動画で解説

ALPS 処理水って何？  
本当に安全なの？

QRコード

再生ボタン

① ALPS処理水って何？  
本当に安全なの？

みんなで知ろう。考えよう。ALPS 処理水のこと

ALPS 処理水

動画で解説

トリチウムって何？

QRコード

再生ボタン

② トリチウムって何？

みんなで知ろう。考えよう。ALPS 処理水のこと

ALPS 処理水

動画で解説

なぜALPS 処理水を  
処分しなければならないの？

QRコード

再生ボタン

③ なぜALPS処理水を  
処分しなければならないの？

みんなで知ろう。考えよう。ALPS 処理水のこと

ALPS 処理水

動画で解説

本当に海洋放出をしても  
大丈夫なの？

QRコード

再生ボタン

④ 本当に海洋放出をしても  
大丈夫なの？

みんなで知ろう。考えよう。ALPS 処理水のこと

ALPS 処理水

動画で解説

近海でとれた魚は  
大丈夫なの？

QRコード

再生ボタン

⑤ 近海でとれた魚は  
大丈夫なの？

- ジャスティン・ハイハースト駐日オーストラリア大使 (@AusAmbJPN) は9月5日、「**福島**の魚を使った**フィッシュ&チップス**をオーストラリア大使館で」と題する動画をX (旧Twitter) に投稿。
- 動画は、大使館関係者が「食べて応援します」と、声を合わせて呼びかける場面から始まり、その後、ジャスティン大使自身が「今日は大使館で福島産の魚を使ってフィッシュ&チップスを食べてます。オーストラリア人は、フィッシュ&チップスが大好きです」と説明するなどの内容。



(出典) ジャスティン・ハイハースト駐日オーストラリア大使 (@AusAmbJPN) の投稿のスクリーンショット

- 2023年9月26日、**国際原子力機関（IAEA）総会のサイドイベント「福島復興と廃炉」を開催。**
- 当省において、環境省、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、東京電力とともに**福島県の復興の進捗、ALPS処理水の海洋放出を含む福島第一原発の廃炉の進展について説明を実施。**
- **各国・地域及び国際機関から約130名の参加**があり、参加者を交えた活発な質疑応答が行われた。

## 経産省主催サイドイベントの様子



- ASEAN関連首脳会議及びG20サミットに出席した**岸田総理から以下のとおり発信**（赤字部分以外は共通）。

- ASEAN関連首脳会議  
（ASEAN+3（日中韓）首脳会議（9/6）、日ASEAN首脳会議（9/6）、東アジア首脳会議（EAS）（9/7））
- G20ニューデリー・サミット（9/9,10）

- ALPS処理水の海洋放出は、国際基準及び国際慣行に則り、安全性に万全を期した上で実施。IAEA包括報告書においても、人及び環境に対する放射線影響は無視できる程度とされている。
- 放出後もモニタリングしたデータを迅速かつ透明性高く公表しており、科学的観点から何ら問題は生じていない。今後も、IAEAや第三国分析機関の関与を得て、データの信頼性を客観的に確認していく。
- これらの点については、国際社会において広く理解が得られているが、中国（ASEAN+3）／一部の国（EAS、G20）は、海洋放出を受けて日本産水産物の輸入を全面的に一時停止するなど突出した行動をとっている。日本としては、今後とも、科学的根拠に基づく行動や正確な情報発信を求めていく。
- 引き続きIAEAとも緊密に連携し、科学的根拠に基づき、高い透明性を持って国際社会に丁寧に説明していく。



ASEAN+3 首脳会議



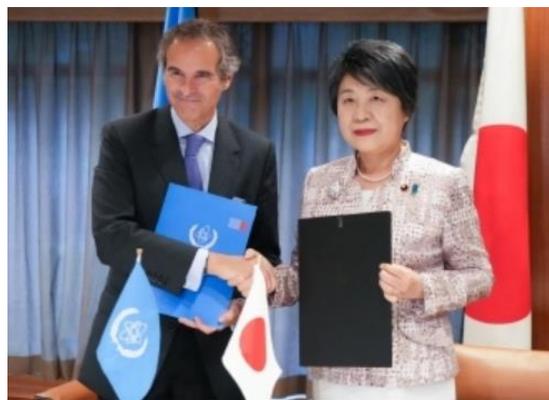
日ASEAN首脳会議



G20ニューデリー・サミット

- 2023年9月18日、「ALPS処理水に関する日本とIAEAとの間の協力覚書」を締結。
- 本覚書は、IAEAによるレビュー及びモニタリングへの関与の継続等IAEAとの連携を再確認するものであり、ALPS処理水の海洋放出について国際社会の安心を一層高めるもの。

## 上川外務大臣とグロッシーIAEA事務局長との会談及び署名式



### (参考)「ALPS処理水に関する日本とIAEAとの間の協力覚書」

IAEAによる確認・評価活動に関する枠組みを設定。  
主要要素は、以下のとおり。

#### (1) 確認・評価

IAEAは、海洋放出中、安全に関する制度・活動について確認・評価。

#### (2) IAEAによる日本駐在

IAEA職員（専門家）は、安全に関する現地での活動の技術的側面を直接監督。

#### (3) IAEAレビューミッション

IAEAタスクフォースの国際専門家の支援を受けながら、IAEAが主導。

#### (4) 裏付け活動

独立したサンプリング及び分析に基づくソースモニタリング及び環境モニタリングの裏付け等を実施。

#### (5) アウトリーチ・広報活動

IAEAの活動への認識向上及び一般市民との情報共有を実施。

- **様々な機会・あらゆるレベル**で、ALPS処理水の海洋放出に関する**発信**や**働きかけ**を実施。

## 1. ステファニック米国下院議員団一行（12名）による表敬（長峰政務官（当時））

- ✓ 9月4日（月）、長峰政務官（当時）は、米国のエリス・ステファニック下院議員団一行（12名）による表敬を受け、意見交換を実施。
- ✓ 長峰政務官（当時）から、**米国側がALPS処理水に関する我が国の取組について支持と理解を表明していることに謝意を述べた。**

## 2. 西村大臣の英国出張

- ✓ 9月6日（水）、西村大臣は英国を訪問。
- ✓ 日英戦略経済貿易政策対話において、**ALPS処理水の海洋放出に対する英国の支持への感謝、英国の日本産食品輸入・消費拡大への期待を述べた。**

## 3. 日本・米国中西部会における基調講演（里見政務官（当時））

- ✓ 9月11日（月）、日本・米国中西部会に里見政務官（当時）が出席し、基調講演を行った。
- ✓ ALPS処理水の海洋放出以降、関係機関が連携して海水や魚のトリチウム濃度を迅速に分析、公表しており、これまでの結果からは、安全であることが確認されていることや、引き続き**モニタリング情報を透明性高く迅速に公表し、わかりやすい情報発信を行うことで、国際社会の理解の醸成に取りこんでいく旨を述べた。**

## 4. 西村大臣のカナダ出張

- ✓ 9月21日（木）、西村大臣は、カナダ・オタワを訪問。
- ✓ 関係閣僚（シャンパーニュ・革新科学産業大臣、イン・輸出促進・国際貿易・経済開発大臣、ウイルキンソン・エネルギー天然資源大臣）との会談を実施し、**ALPS処理水の海洋放出後のカナダによる日本産食品輸入・消費拡大への期待を述べた。**

## 5. ドン・グレイブス米国商務省副長官による表敬（石井政務官）

- ✓ 9月25日（月）、石井経済産業大臣政務官は、米国商務省のドン・グレイブス副長官による表敬を受け、意見交換を実施。
- ✓ **ALPS処理水の海洋放出に関して、日本産食品の消費拡大に向けて日米が引き続き連携していくことで一致。**

# 安全確保

## 東京電力

- 海水中トリチウムを測定。
- 放出後1か月程度は、発電所から3 km以内の10地点で毎日、迅速分析を実施。

## 水産庁

- 水産物は年約380検体でトリチウムを測定
- 放出後1か月程度は、①放水口の北北東へ約4 km、②放水口の南南東へ約5 kmの2地点で、毎日迅速分析を実施。

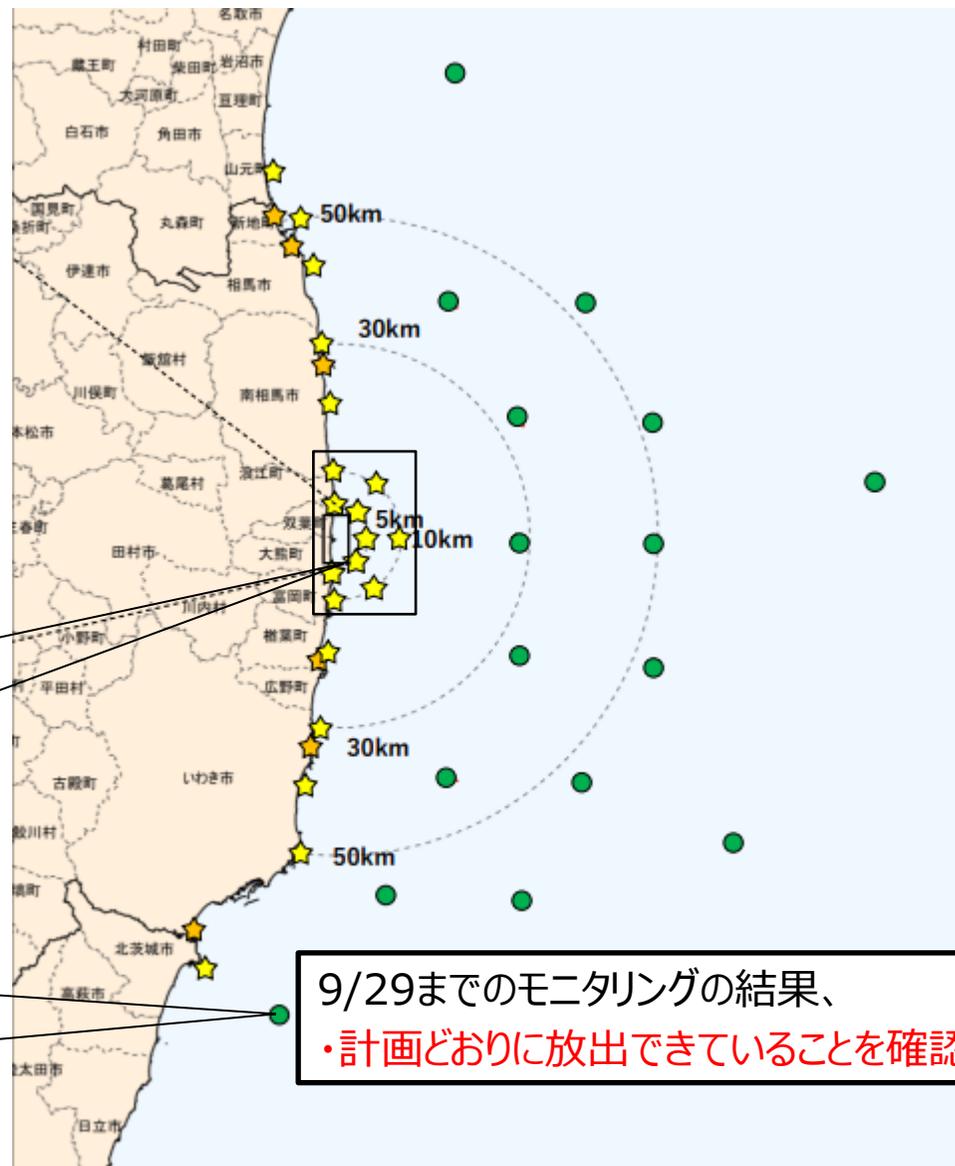
## 環境省

- 海水中トリチウムを測定
- 放出後当面の間、11地点で週1回迅速分析を実施。  
(海水浴場においても海水中トリチウムを測定) ★

## 原子力規制庁

- 海水中トリチウムを精密分析にて測定。
- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。 ●

【広域図】



- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年9月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

## 新聞への広告掲載内容（左上：第28回、右下：第29回）

### 福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.28

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

#### 多核種除去設備等処理水(ALPS処理水)の海洋放出を開始いたしました

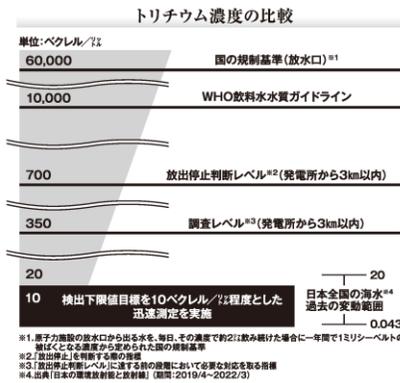
計画どおり安全に放出できていることを確認しております

- ▶2023年8月22日、政府から、ALPS処理水の海洋放出について開始の判断が示されました。当社は、実施主体として、この判断を厳密に受け止め、8月24日から海洋放出を開始いたしました。
- ▶ALPS処理水は、最初トリチウム濃度の低いものから慎重に放出することとしております。今年度は、約3万1千kg、トリチウム総量で約5兆ベクレル<sup>※1</sup>のALPS処理水を、4回に分けて海洋放出する計画です。
- ▶初回の海洋放出(8月24日～9月11日)では、設備や運用上のトラブルはなく、放出した水のトリチウム濃度は、政府方針で示された基準<sup>※2</sup>より十分低い、1/10あたり約200ベクレルでした。また、当社および各機関は、海水と水産物の海域モニタリングにおいて、放出下限値目標を10ベクレル/1リットル(程度)(水産物は10ベクレル/kg程度)としたトリチウム濃度の迅速測定を実施しており、運用上の指標(右図参照)を大きく下回る結果となっております。
- ▶ALPS処理水の海洋放出は、長期にわたる継続的な取組みとなります。当社は、この期間を通じ、実施主体としての重い責任を担い続ける決意と覚悟をもって、
  - 設備運用の安全・品質の確保
  - 海域モニタリングの実施、国内外への正確で分かりやすい情報発信
  - 国際原子力機関(IAEA)の継続的なレビュー等を通じた透明性の確保
  - 風評対策、ならびに損害発生時の適切な賠償
 に、社を挙げて全力で取り組んでまいります。

<sup>※1</sup>1ベクレルは放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位  
<sup>※2</sup>現在実施中のサブドレン等の排水濃度の運用目標と同じ、1/1あたり1,500ベクレル未満



運転開始の様子(8月24日)



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください  
▶【処理水ポータルサイト】  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/>

海域モニタリングの結果はこちらをご覧ください  
▶【海域モニタリングの結果】  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/monitoring/>

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策  
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

7

### 福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.29

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

#### ALPS処理水に関する情報発信①

### 「処理水ポータルサイト」で海洋放出に関する様々なデータをご確認いただけます

- ▶ALPS処理水に関する情報をまとめた「処理水ポータルサイト」では、海洋放出に伴う様々なデータを公開しています。
- ▶「ALPS処理水 海洋放出の状況(右参照)」では、放出前に測定したALPS処理水の分析結果、海洋放出時の各設備の運転状況に関するリアルタイムデータや海域モニタリングの結果など、海洋放出に関する様々な情報を掲載しております。
- ▶また、処理水ポータルサイトは、英語、中国語(簡体字、台湾繁体字)、香港繁体字、韓国語の各言語に対応しています。
- ▶今頃から、公開している情報について、シリーズでお伝えします。



「処理水ポータル」でご検索ください  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/>

### 皆さまからの声におこたえします

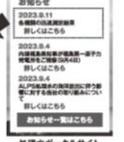
Q 海洋放出が開始されましたが、安全に放出できていますか？

A

- 1回目の海洋放出が9月11日に完了しました。(総放出水量:7,788ml、トリチウム総量:約1兆ベクレル)
- 放出開始後、設備や運用にトラブルはなく、当社および各機関による海水と水産物の海域モニタリングにおいても、トリチウム濃度は、放出停止判断レベル(700ベクレル/ℓ)を大きく下回っており、計測通り安全に放出していることを確認しています。引き続き、次回以降の放出についても安全対策に万全を期してまいります。
- なお、当社や各機関の迅速測定<sup>※</sup>による海域モニタリングの結果については、処理水ポータルサイト内の【お知らせ】に掲載しています。  
<sup>※</sup>トリチウムの検出下限値を10ベクレル/ℓ程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定。

▼各機関の迅速測定結果 画面イメージ





処理水ポータルサイト  
トップ画面【お知らせ】

広告